

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々のミーティングや毎月の職員会議で法人理念と施設目標を再確認し共有している。朝礼時は理念とコンセプトの唱和を行っている。施設目標は掲示し常に意識して取り組むよう促している。また異動時はオリエンテーションを行い共有している	利用者、家族には契約時に、また、見学者等にも事業所が目指しているサービスのあり方を説明している。管理者は職員会議などで折に触れ理念を具体的に説き、気になる言動があれば助言している。職員は法人理念、コンセプト、施設目標を十分理解し、日々実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり定期的に介護相談専門員や傾聴ボランティア等の来訪がある。また施設周辺の散策を行う中で馴染みの関係が出来るよう努めている	自治会費を納め、広報から地域の行事やイベント、クラブ等の情報を集め地域の一員として参加している。諏訪湖アダプトプログラム(清掃活動)には利用者と共に継続して参加し、美化活動に取り組んでいる。各種ボランティアも定期的に来訪し顔馴染みとなっている。事業所の納涼祭には区長の協力もあり、住民、家族が大勢来訪し盛大に行なわれ、親睦も図られている。ホーム利用前に住んでいた地域から誘われて演芸会を見に出かけた利用者もいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在諏訪湖アダプトプログラム(諏訪湖の美化活動)を年4回の予定で実施している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での取り組み状況を報告し十分な意見交換を行っている。その内容は職員会議や会議録で周知し今後のサービス向上に活かしている	利用者、家族、介護相談員、区長、民生委員、市職員、広域職員の出席を得て定期的に開催している。広域連合所定の基本資料があり事業所の利用者状況、職員状況、地域との連携などが分かりやすく記載されている。市体育館で遊具の貸し出しをしているとの情報を得るなど委員からの情報や助言は事業所にとって有意義なことが多く、サービス向上に活かされている。欠席の委員には議事録等を届け周知している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定更新時、運営推進会議等の機会に市の担当者との連携を取っている。介護相談専門員の定期的な来訪により利用者様の暮らしぶりや相談にのっている。また相談内容は専用のノートに記載し把握している	2名の介護相談員が毎月2回、定期的に来訪し利用者の話しや様子などを伺い、記録に残している。介護保険の更新申請は家族が行っているが依頼があれば代行している。認定調査は事業所で行なわれることが多く、家族が同席することもある。状態変化等で区分変更が必要な場合は家族と相談した上で申請している。県、市、保健所等からメールや資料が届き必要に応じて研修や講習会に出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について法人や施設内で研修を行っている。自由に外へ出る事ができる環境の大切さは理解しているが職員配置、周辺環境を考え入居者の安全確保を考慮し、ご家族の了解を得て玄関の鍵をかけている。ご利用者様から買い物や散歩の要望時は外出している	法人の年間研修計画の中に身体拘束について組み込まれており職員は受講している。玄関の施錠については利用者の様子を見ながら必要時いつでも外出し、気分転換に努め、利用者が気持ちよく暮せるように取り組んでいる。職員は身体拘束その他利用者の行動を制限する行為を具体的に理解しており拘束による弊害も認識している。	

グループホーム風薫

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に施設内研修を行い高齢者虐待について理解を深めている。常に尊重する気持ちを持って関わることに努め、日頃の言葉遣いやケアが適切であるか確認している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会の参加、成年後見制度や日常生活自立支援事業のチラシなどを用いて学んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所時は十分な説明を行い、ご家族の不安や疑問点を確認しながら同意を得ている。また改定時は文書等でも通知し不明な点は問い合わせを頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とは遠慮なく話せる関係と環境作りに努めている。ご家族の面会時には状況の報告をしご家族の想いを聴く機会としている。運営推進会議では意見や要望を自由に発言して頂き運営に活かしている。また意見箱を設置している	利用者からわがままを言っていたことを方針として上げており、出された要望等については可能な限り対応している。玄関の意見箱は主に利用者が利用しており、食べたい物など思いを書いて投函している。家族会を含め年3回家族等が集まる機会を設け、意見・要望を聞いたり親睦も図っている。家族の来訪も週1回の方から年4回ほどの遠方の方まで都合をつけて訪れている。ホームの「風薫新聞」を毎月発行し事業所内に掲示している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや職員会議等で意見や提案を聞き問題点の明確化や具体的な改善策を話し合っている	月末に全体会議があり、法人の会議の報告、介護計画の検討、意見・要望などを出し話し合っている。意見・要望は法人グループホーム部会に上げて検討される。ミーティングは朝礼や勤務後に行なわれ、その日の課題や留意点を検討している。職員は個人目標を立て、3ヶ月毎、自己評価と接遇シートでの自己採点をしている。年2回、管理者と個人面接をし、相談したり助言等を受けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人目標を設定し年数回の自己評価を行っている。自己評価表にアドバイス等を記載し、やりがいをもちながら働けるよう努めている。返却時は個人面談を行い悩み等を聞く機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に可能な限り多くの職員が参加できるよう機会を確保している。		

グループホーム風薫

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月の会議で他事業所と情報交換をし、事例検討を通じて質の向上に取り組んでいる		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にできるだけご家族とご本人に来所して頂き施設内を見たり、ご本人が困っている事等をお聞きしている。事前面談に身体面や生活面の情報を事前収集し入居後はご本人の訴えを受け止め信頼関係を築く努力をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設内を見て頂くとともに、ご家族の様々な想いに共感している。また入居後の不安や要望などを聴き、その対応についての話し合いをしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の思いをよく聴き、必要としている支援を見極めるよう努めている。当施設ではどのような支援ができるのかを他のサービス利用も含め考えている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ立場、同じ目線に立ち喜びや悲しみ、楽しみ等を共感している。炊事や掃除など一緒に行い支えあう関係作りをしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の生活や身体状況等を毎月のお便りにて報告するとともに面会時にもお伝えしている。また施設内外の行事にお誘いしご家族が関わる場面を作っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出、外泊に制限が無く、来訪しやすい雰囲気作りに努め馴染みの関係が継続されるようにしている。電話の取り次ぎも制限がなく遠方の方との関係も大切にしている	ホームへの訪問美容もあるが家族と馴染みの美容院へ行く利用者もいる。自宅が気になる方には見に出かけ安心していただいている。地区の夏祭りに出かけおおいに楽しんできた利用者もいる。ホーム利用前の近所の方や茶飲み友達も高齢になり来訪が途切れており、体制を整えれば利用者の馴染みの場所、馴染みの人に会いに出かける機会を持ちたいとの意向もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士会話をしている時間を大切にするとともに、その環境作りを行っている。また利用者同士の関わりが持て、人間関係が上手くいくよう声掛けをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も今までの生活環境や支援が継続されるよう他事業所、ご家族に情報を提供し連携に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関わりの中での言葉や表情、行動等から思いや希望を汲み取るようにしている。意向の確認が困難な方はご家族などから情報を得て本人の立場に立ちカンファレンス等を行っている	利用者一人ひとりの思いや希望の把握に日々努め、職員は多くの選択肢を用意している。9割以上の方が自分の思いや意向を言葉で表すことが出来る。難しい方は家族等からの情報や表情、しぐさなどから判断、推測している。利用者の中には事業所内の活け花(月2回生花店から季節の花が届く)を担当している方、家事の得意な方、短歌を詠む方、ピアノ演奏を好まれる方、地区のコーラスグループに通う方など利用前からの趣味を継続させている方が多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者、ご家族から昔の写真をお借りし、一緒に見ながら生活歴や馴染みの暮らし方の把握に努めている。他の事業所からも利用時の様子を教えて頂き得た情報はミーティング等を通じ共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、出来る事や楽しんでいる事等の把握に努め記録やミーティングで共有するよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中でご本人の意見をお聞きしたり、ご家族が面会に見えた際に現状をお伝えし意向を確認し相談しながらケアに反映させている。また主治医とも話し合い計画を作成している	職員は利用者1~2名を担当している。利用者一人ひとりの情報を集め、全体会議の中で話し合い、計画作成担当者が介護計画を作成している。評価見直しは3ヶ月毎に行っている。毎月介護計画の遂行状況を含め暮らしの様子、状態を家族に報告している。状態変化や家族からの意向の変更等があればサービス担当者会議を開き内容を検討し修正や新たなものに作り変えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に身体状況、本人の言葉や様子を記入し勤務開始前に業務日誌も含め確認する事を義務としている。また記録をもとに評価し介護計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の希望時は買い物や外出等個別の支援を行っている。ご家族との外出、外泊や当施設への宿泊、食事の提供等柔軟なサービスを行っている		

グループホーム風薫

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に広域連合、市役所、介護相談専門員、民生委員をお呼びし情報交換を行うとともに施設への理解と協力を頂いている。また定期的なボランティアの訪問や区で行われているコーラスの参加、訪問理美容を利用している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人とご家族の希望するかかりつけ医となっている。定期受診はご家族対応であるが緊急時は職員が付き添う等柔軟な対応をとっている。かかりつけ医によっては往診も行っている。夜間を含む急変時の連絡体制をかかりつけ医と相談し決めている。また協力歯科医による往診も行われている	ホーム利用後、往診を依頼できる医師に変更した利用者がいる。現在4名の医師が緊急時も含め往診している。全てのかかりつけ医とは24時間連絡、相談が可能となっており、利用者の状態が変化した時には適切な医療が受けられるようになっている。看護師が週2日、午前中に勤務しており、不在時には隣接の居宅介護支援事業所の看護師及び各かかりつけ医院の看護師との連携体制がとられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置し対応している他、隣接している事業所の看護師との連携も取り支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関に情報を提供している。本人、家族、医療機関と回復状況の連絡を密にとり早期に退院出来るよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合のサービスのありかたについて話し合う機会を作っている。ご本人やご家族様の希望を聞き、かかりつけ医との相談を十分に行い方針を決めるようにしている。また重度化した場合における指針の同意を文書にて頂いている。	重要事項説明書に「重度化した場合における対応に関わる指針」が記載されている。契約時に家族に説明し同意を得ており、殆どどの家族が最期までの利用を望んでいる。利用者本人の状態が変化した時点で家族、主治医、事業所との話し合いを行った上、家族が希望すれば「看取り介護についての同意書」を取り交わし、看取り支援が開始される。昨年、体調を崩した2名の方が家族の意向で医療機関へ移られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルをもとに研修を行っている。また実際に起きた事故の対応確認や計画作成時に急変や事故が予測される場合は全体会議等で話し合い勉強している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月11日にミニ防災訓練を行っている。6月、11月は隣接の事業所とともに防災訓練を行い消防署の指導も受けている。また8月には地震を想定した訓練を行っている。今後は地域の消防団の方にも訓練に参加して頂く予定	6月と11月には消防署の指導の下、隣接のデイサービスと合同で防災訓練を行っている。事業所単独で行うミニ防災訓練は防災委員会が中心となり、火災や地震等を想定し利用者を誘導しながら行っている。現在、車椅子を使用している三分の一ほどの利用者も必ず訓練に参加している。スプリンクラー、火災報知器、通報装置、消火器などの防災設備が整い、非常食や飲料水なども備蓄されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の先輩である事を職員全員が意識し敬意を払っている。ご本人で行う事が困難な時にさりげないケアをし、自己決定が出来るような言葉掛けに心がけている	毎年法人研修に参加し職員一人ひとりの意識を向上させている。どの職員も利用者に「○○様」と声を掛けており、後に続く言葉も穏やかでユックリと丁寧に語りかけている。昼食時、始めは介助されていたが職員の言葉掛けや対応により途中からは自らの手で茶碗を持ち、箸やスプーンで食べ始めた利用者があり、どこにそんな力があつたのかと驚かされた。残存する力を十分把握し、利用者の自主性を重んじている姿を垣間見ることができた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の状態に合わせて分かりやすく選びやすい言葉掛けを行っている。意思表示が困難な方は表情や行動からその意思を汲み取り理解するようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のご利用者の状態や気分によって個別の外出や希望メニューの提供等を行っている。ご利用者のペースを大切にし気持ちを尊重しながらその人らしい生活が出来るよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時は衣類を選べるよう言葉をかけている。訪問理美容を活用しご本人の要望に沿えるようにしている。またお化粧品や装飾など今まで行ってきた事が継続して行え、おしゃれが楽しめるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節やその日の天候、ご利用者の希望でメニューを決め、食事作り、盛付、片付け等一緒に行っている。職員とご利用者が同じテーブルで会話を楽しみながら食事する時間を大切にしている	主たる食材は発注しているが週一回利用者ど買い物にも出かけている。利用者は職員と調理や盛り付けをしている。陶器の食器に彩りよく盛り付けされ、一人分ずつお膳で出されている。小学唱歌が静かに流れていた。誕生日、家族会、ひな祭りなどには季節に応じた献立となる。午後のおやつは毎回利用者と一緒に手作りしている。畑には夏野菜が育てられており、収穫を今から楽しみにしている。盛夏になるとベランダにはゴーヤのグリーンカーテンがお目見えする。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養バランスに気をつけ、個別の嗜好や食事形態に合わせるようにしている。食事は確認し把握出来ている。水分はこまめに提供し摂取が困難な方はゼリーを召し上がっていただき1日の水分量を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後お一人ずつ歯磨きの声掛けをし行っている。毎週歯科往診があり連携を取りながら口腔状態の把握に努めている。また義歯は洗浄剤を使用している		

グループホーム風薫

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し排泄のサイクルを把握している。本人の排泄サインを見逃さず自尊心に配慮したケアを心掛けている	一人ひとりの排泄パターンを職員は共有しており、声掛けや誘導、見守りが行なわれている。排泄状態に応じ、布パンツ、布パンツにパット、リハビリパンツ、オムツが使用されている。昼、夜ともにトイレでの排泄支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表でサイクルを確認し便秘の方には水分を多く取って頂けるよう促している。また繊維の多い食材や適度な運動を行い自然排便に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度の時間は決まっているが本人の希望を確認して入浴している。その方のこれまでの習慣に合わせ、楽しんで頂けるよう支援している	週2～3回入浴している。お風呂は毎日準備し、一日に3名の方が午後(14時～16時)入浴している。入浴を嫌がる利用者は今のところいない。外出時に足湯に立ち寄りたり、家族と一緒に温泉や日帰り入浴に出かける方もいる。季節のお風呂(菖蒲湯、りんご・みかんの皮、柚子湯)も楽しみながら入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣に沿って休息を促している。また体調や本人の希望に応じて支援している。日中の活動にも気を配っているが眠れない方には一緒に会話をしたり足浴等行い安眠出来るようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬のファイルを作成し目的や副作用、用法等を理解している。処方に変更があった場合は個人記録や業務日誌に記載し送り等で把握している。状態変化の観察に努め、その変化は医師に伝えている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自宅にいた頃の趣味が継続できるように支援している。出来る事、希望する事の中から役割を持ち張り合いのある生活となるようにしている。また季節の行事や外出等ご利用者の意見を取り入れながら行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出かけ季節を感じて頂けるようにしている。個別ケアを行い本人の希望で自宅へお連れしたり、買い物でお好きなものを購入したり、外食が楽しめるように支援している	屋内では補助具で自力歩行が可能であるが外出時は半数が車椅子となる。日常的には湖畔の散歩、敷地内で軒下のツバメの巣を見たり、菜園まで足を伸ばしている。行事外出はユニット毎に実施しておりイチゴ狩り、お花見、紅葉狩り、買い物や外食ツアーなどに出かけている。個別外出も本人の意向に沿いながら取り組んでいる。大勢で出かける時には家族や傾聴ボランティアなどの協力が得られている。	

グループホーム風薫

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望する場合は、ご家族の理解と協力を得て所持している方もいる。買い物へ出かけた際は支払い時に財布を渡しご自分で支払って頂けるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話をかけたり取り次いだりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生け花や観葉植物等季節の花を飾り四季を感じて頂けるようにしている。また家庭的な雰囲気居心地の良い場所となるよう努めている	玄関を挟んで二つのユニットがあり、共有スペースは床暖となっている。利用者が活けた花は玄関と各ユニットに飾られている。食堂の壁には一週間分の献立が写真で掲示されている。年度始めに作成した菱形の凧には利用者一人ひとりの抱負が書き込まれている。大きなガラス戸の外はクローバーが敷き詰められた広い公園で、老若男女が楽しむ様子を居室から眺めることができる。食堂のテーブルを囲んだり、ソファに腰掛けたりしておだやかに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者が、ホール、台所等でそれぞれ居心地の良い場所があり、その場所で落ち着いて過ごせるようにしている。ホールにソファを置き気の合った方達でくつろげるよう配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具、調度品を自由に持ち込み、以前と変わらない環境作りに努めている。絵や写真を飾っている方もいる	各居室の入口と内窓は障子風の戸となっている。大きな押入れがあり衣類ケース、ポールハンガーなどを使い仕分けされている。どの居室も整理整頓されて清潔である。多くの利用者はベッドであるが自宅と同じようにマットレスを敷いている方もいる。利用者は壁に絵を飾ったり、作品を並べてみたりと自分好みの居室で、日々、気分良く過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の、できること、わかることを理解し不安や混乱が生じないように努めている。また継続していけるよう安全に配慮しながら自立した生活を支援している		